

# 地球温暖化対策実行計画 令和元年度実績報告

坂戸、鶴ヶ島水道企業団（以下「企業団」という。）では、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出削減を目標とする「坂戸、鶴ヶ島水道企業団地球温暖化対策実行計画」（以下「実行計画」という。）を平成27年3月に策定し、取り組みを推進しています。

地球温暖化対策の推進に関する法律第21条第10項に基づき、令和元年度における実施状況について公表します。

## 1 実行計画の概要

項目	概要
計画の期間	平成27年度～令和元年度（5年）
計画の基準年度	平成25年度
計画の対象物質	「地球温暖化対策の推進に関する法律」にて規定されている削減対象の温室効果ガスのうち、把握可能な4種類（二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン）
計画の対象範囲	企業団が行う全ての事務及び事業
計画の削減目標	令和元年度において、基準年度と同水準以下に抑制すること

## 2 取組結果（温室効果ガス排出状況）

### （1）総排出【kg-CO<sub>2</sub>】

項目	平成25年度 （基準年度）	令和元年度	対基準年度	
			増減量	増減率(%)
温室効果ガス総排出量	3,282,411	3,019,154	△263,257	△8.0

### ア 原単位（配水量1m<sup>3</sup>当たりの排出量）【kg/m<sup>3</sup>】

項目	平成25年度 （基準年度）	令和元年度	対基準年度	
			増減量	増減率(%)
原単位	0.164	0.155	△0.009	△5.5

(2) 施設別排出量【kg-CO<sub>2</sub>】

施設名		平成25年度 (基準年度)	令和元年度	対基準年度	
				増減量	増減率(%)
事務 施設	坂戸鶴ヶ島上下水道合同庁舎	57,707	46,828	△ 10,879	△ 18.9
	鶴ヶ島浄水場事務棟	23,585	19,843	△ 3,742	△ 15.9
事業 施設	鶴ヶ島浄水場	1,182,138	1,196,254	14,116	1.2
	坂戸浄水場	1,534,816	1,247,900	△286,916	△ 18.7
	多和目配水場	181,985	173,438	△ 8,547	△ 4.7
	城山配水池	3,230	3,173	△ 57	△ 1.8
	若葉台取水中継ポンプ場	66,136	53,939	△12,197	△ 18.4
	厚川取水中継ポンプ場	232,814	277,779	44,965	19.3
計		3,282,411	3,019,154	△263,257	△ 8.0

(3) 種類別排出状況【kg-CO<sub>2</sub>】

温室効果ガス	平成25年度 (基準年度)	令和元年度	対基準年度	
			増減量	増減率(%)
二酸化炭素	3,280,282	3,017,263	△263,019	△ 8.0
メタン	822	822	0	0.0
一酸化二窒素	1,047	809	△ 238	△ 22.7
ハイドロフルオロカーボン	260	260	0	0.0
計	3,282,411	3,019,154	△263,257	△ 8.0

(4) 要因別排出状況【kg-CO<sub>2</sub>】

ア 二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>)

排出要因	平成25年度 (基準年度)	令和元年度	対基準年度	
			増減量	増減率(%)
ガソリン	20,826	14,710	△ 6,116	△ 29.4
軽油	6,518	2,001	△ 4,517	△ 69.3
灯油	3,321	7,536	4,215	126.9
LPG	910	292	△ 618	△ 67.9
都市ガス	15,594	13,955	△ 1,639	△ 10.5
電気	3,233,113	2,978,769	△254,344	△ 7.9
計	3,280,282	3,017,263	△263,019	△ 8.0

イ メタン (CH<sub>4</sub>)

排出要因	平成25年度 (基準年度)	令和元年度	対基準年度	
			増減量	増減率(%)
自動車の利用	26	19	△ 7	△ 26.9
発電機の使用	56	126	70	125.0
ガス器具の使用	356	318	△ 38	△ 10.7
浄化槽の使用	384	359	△ 25	△ 6.5
計	822	822	0	0.0

ウ 一酸化二窒素 (N<sub>2</sub>O)

排出要因	平成25年度 (基準年度)	令和元年度	対基準年度	
			増減量	増減率(%)
自動車の利用	707	512	△195	△ 27.6
発電機の使用	59	36	△ 23	△ 39.0
ガス器具の使用	60	54	△ 6	△ 10.0
浄化槽の使用	221	207	△ 14	△ 6.3
計	1,047	809	△238	△ 22.7

エ ハイドロフルオロカーボン (HFC)

排出要因	平成25年度 (基準年度)	令和元年度	対基準年度	
			増減量	増減率(%)
自動車の利用	260	260	0	0.0

令和元年度における温室効果ガス総排出量については、基準年度である平成25年度に対し263,257kg-CO<sub>2</sub>減少することができました。

上水道事業を運営する企業団における温室効果ガスの排出量は、主に配水量（配水ポンプ等に使用する電力量）、その運用方法（電力量抑制のための自家発電設備を稼働させることによる燃料使用量）及び当該年度の事業内容（発注工事の内容）等により大きく左右されることとなります。

令和元年度における事業施設の基準年度比は、鶴ヶ島浄水場及び厚川取水中継ポンプ場で温室効果ガス総排出量が増加となりました。これは、配水量の増加に伴い自己水（地下水）取水量が増加したことにより、ポンプ等に使用する電気使用量が増加したことが主な要因です。しかし、事務施設である合同庁舎及び鶴ヶ島浄水場事務棟においては削減することができました。今後とも削減目標の達成に向け、温室効果ガスの排出抑制に取り組んでいきます。